

平成25年度 教科に関する研究  
研究主題「思考力・判断力・表現力を育む学習指導と評価」

## 音楽

音楽的な感受を踏まえた思考力・判断力・表現力を育てる音楽科  
学習指導と評価

－〔共通事項〕を基に，思考・判断し，表現する一連の過程を  
重視した授業づくりを通して－



# 目次

1	主題について	1
2	授業研究	5
	【授業研究1】	
	音楽的な感受を踏まえた思考力・判断力・表現力を育てる音楽科学習指導と評価 ー小学校第6学年「いろいろなひびきを味わおう」におけるキーワードを基にした 授業の組立てと評価の工夫を通してー	5
	【授業研究2】	
	音楽的な感受を踏まえた思考力・判断力・表現力を育てる音楽科学習指導と評価 ー中学校第1学年「曲想にふさわしい表現をしよう」における思いや意図をもって 表現するための学習活動と評価の工夫を通してー	12
	【授業研究3】	
	音楽的な感受を踏まえた思考力・判断力・表現力を育てる芸術科（音楽）学習指導 と評価 ー高等学校第1学年音楽Ⅰ「和楽器のしらべ～箏に親しもう～」における表現と鑑 賞の関連を図った学習活動と評価の工夫を通してー	19
3	研究のまとめ	26

## 音楽科研究主題

### 音楽的な感受を踏まえた思考力・判断力・表現力を育てる音楽科 学習指導と評価

－〔共通事項〕を基に、思考・判断し、表現する一連の過程を重視した授業づくりを通して－

#### 1 主題について

##### (1) 音楽科における思考力・判断力・表現力について

学習指導要領の改訂を踏まえ、平成22年3月に中央教育審議会から「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」が報告された。音楽科における思考力・判断力・表現力に係る観点として、「音楽表現の創意工夫」と「鑑賞の能力」が示された。二つの観点の趣旨について、以下に示す。

##### ○音楽表現の創意工夫

(小学校) 音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，音楽表現を工夫し，どのように表すかについて思いや意図をもっている。

(中学校) 音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら，音楽表現を工夫し，どのように表すかについて思いや意図をもっている。

(高等学校) 音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きを感受しながら，音楽表現を工夫し，表現意図をもっている。

##### ○鑑賞の能力

(小学校) 音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，楽曲の特徴や演奏のよさなどを考え，味わって聴いている。

(中学校) 音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら，解釈したり価値を考えたりして，よさや美しさを味わって聴いている。

(高等学校) 音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きを感受しながら，解釈したり価値を考えたりして，音楽に対する理解を深め，よさや美しさを創造的に味わっている。

(波線及び実線，点線は本資料作成者による。)

波線及び下線，点線から，音楽科における思考力とは，音楽的な感受（波線）を踏まえ，音楽表現を工夫したり，よさなどを考えたりすること（実線），判断力とは，音楽表現を工夫したことを基に思いや意図をもったり，よさなどを味わったりすること（点線），表現力とは，思考・判断したことを言語等で表すことであると捉える。

音楽科における思考力・判断力・表現力を育てていくためには，上記の二つの観点

の趣旨に示されている児童生徒の姿を目指した学習指導及びその学習状況の評価を行うことが重要であると考える。

## (2) 研究の基本方針

平成21年度及び23年度の研究では、音楽的な感受に相当する〔共通事項〕アの内容を生かした言葉の重視と体験の充実を踏まえた表現及び鑑賞領域の実践的な授業研究を通して、主に思考・判断する力を育成することを目指した。音や言葉で「伝え合う」活動を位置付けたことは、知覚・感受したり、それを基に思考・判断したりする活動の充実につながったと考える。また、平成23年度の研究から、思考・判断する力及び音や言葉で表現する力は、知覚・感受したことを基に、思考・判断し、表現する一連の過程において育まれることが分かった。

今回の研究を進めるに当たって、音楽科における思考力・判断力・表現力を育むための学習指導と評価についての実態調査を行った。その結果から、思いや意図をもって音楽を表現したり、音楽のよさや美しさを味わって聴いたりする学習指導への意識の高さがうかがえる。また、このような児童生徒の姿を目指し、適切な学習活動を設定しようとしていることが分かる。一方で、設定した学習活動における児童生徒の学習状況の評価することについては、課題意識が低いことから、十分な取組がなされていないと考える。

本研究では、これまでの研究及び実態調査を踏まえ、〔共通事項〕を基に、思考・判断し、表現する一連の過程を重視した授業づくりを通して、音楽的な感受を踏まえた思考力・判断力・表現力を育てる音楽科学習指導と評価について、実践的な研究を行う。

具体的には、指導のねらいに即した知覚・感受する活動及び思考・判断する活動を位置付け、思いや意図をもって表現したり、味わって聴いたりすることができるようにする。また、題材に即した評価規準を設定し、適切に児童生徒の学習状況の評価していく。そして、評価したことを基に、知覚・感受する活動や思考・判断する活動の工夫改善を図ったり、個に応じた手立てなどを講じたりしていく。このように、学習指導と評価を一体的に進めていくことが、音楽的な感受を踏まえた思考力・判断力・表現力を更に育てることにつながると考える。

なお、音楽的な感受に相当する〔共通事項〕アの内容は、小学校学習指導要領解説音楽編（平成20年8月文部科学省）及び中学校学習指導要領解説音楽編（平成20年9月文部科学省）においては、以下のように示されている。

### 小学校〔共通事項〕（抜粋）

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

ア 音楽を形づくっている要素のうち次の(ア)及び(イ)を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること。

(ア) 音楽を特徴付けている要素

(イ) 音楽の仕組み

### 中学校〔共通事項〕（抜粋）

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

ア 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特徴

や雰囲気を感じること。

高等学校学習指導要領解説芸術（音楽）編（平成21年12月文部科学省）においては、「A表現」の歌唱，器楽，創作の指導事項エ，「B鑑賞」の指導事項イに，小中学校の〔共通事項〕のアに相当する内容がそれぞれ示されている。また，「A表現」の歌唱，器楽，創作の指導事項エ，「B鑑賞」の指導事項イを他の事項と関連付けて指導することが示されている。

### (3) 主題に迫るために

以下に示すア，イの2点を踏まえ，具体的な手立てを講じた授業研究を行う。

〔共通事項〕を基に，思考・判断し，表現する一連の過程を重視した授業づくり  
ア 指導のねらいに即した知覚・感受する活動及び思考・判断する活動の工夫  
イ 学習過程において適切な評価をするための工夫

## 資料

音楽科における思考力・判断力・表現力を育むための学習指導と評価についての実態調査  
(数値は%)

#### (1) 調査期間

平成25年3月1日から平成25年3月14日

#### (2) 調査対象

県内公立小学校549校，公立及び県立中学校232校，県立高等学校100校（太田第二高等学校里美校を含む），県立中等教育学校1校

#### (3) 回答総数

551件（小学校343件，中学校142件，高等学校66件）

#### (4) 回収率

62.5%

#### 設問1

音楽を形づくっている要素を手掛かりにしながら思考・判断し，思いや意図をもって音楽を表現したり，音楽のよさや美しさを味わって聴いたりする学習指導が適切に行われている

	小学校	中学校	高等学校	総数
そう思う	16.4	29.2	23.1	20.4
まあそう思う	79.8	67.8	67.7	75.4
あまりそう思わない	3.8	3.0	9.2	4.2
そう思う思わない	0.0	0.0	0.0	0.0

全ての校種において，「そう思う」と「まあそう思う」を合わせて9割を越えている。

設問2

音楽を形づくっている要素を手掛かりにしながら思考・判断し、思いや意図をもって音楽を表現したり、音楽のよさや美しさを味わって聴いたりする学習指導において課題となっていること（複数回答可）

	小学校	中学校	高等学校	総数
①思いや意図をもって表現する活動につながる言語活動の設定	49.0	48.6	42.4	48.1
②音楽を味わって聴くことにつながる言語活動の設定	42.9	50.0	53.0	45.9
③音楽で表現する活動時間の確保	51.9	43.0	57.6	50.3
④思考・判断したことを基に音楽表現するために必要な技能の習得	53.6	54.2	69.7	55.7
⑤思考・判断したことを言語等で表現するための手立て	45.8	48.6	33.3	45.0
⑥題材の指導計画の作成	11.7	16.9	16.7	13.6
⑦評価規準の設定	27.1	30.3	42.4	29.8
⑧評価方法の選択	14.9	14.8	18.2	15.2
⑨評価時期の設定	2.6	7.0	7.6	4.4
特になし	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.6	0.0	1.5	0.5

この設問には、選択肢として、学習活動に関わる内容（①から⑤）及び学習評価に関わる内容（⑦から⑨）、両方に関わる内容（⑥）を設定した。

学習活動に関わる全ての内容が、総数において4割を超えている。特に、「③音楽で表現する活動時間の確保」及び「④思考・判断したことを基に音楽表現するために必要な技能の習得」については、5割を超えている。一方、学習評価に関わる内容は、「⑦評価規準の設定」が総数において3割弱であり、それ以外は2割を切っている。また、両方に関わる内容である「⑥題材の指導計画の作成」については、1割半ばである。

設問3

音楽科における「思考・判断・表現」に係る観点別学習状況の評価の観点である「音楽表現の創意工夫」及び「鑑賞の能力」について、評価を適切に行うために取り組んでいること（複数回答可）

	小学校	中学校	高等学校	総数
指導内容に応じた学習活動の設定	70.6	59.9	66.7	67.3
知覚、感受したことなどを引き出す場面の設定	45.5	52.8	48.5	47.7
学習カードやワークシートの工夫	70.6	86.6	66.7	74.2
複数の評価方法を組み合わせた評価の実施	23.9	26.1	47.0	27.2
指導内容に基づいた適切な評価の実施	29.7	22.5	33.3	28.3
「おおむね満足できる」状況や「十分満足できる」状況と判断される具体的な例などを想定した評価の実施	26.5	35.2	21.2	28.1
評価時期の設定	8.2	7.0	18.2	9.1
評価計画の作成	8.7	10.6	16.7	10.2
特になし	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.3	0.0	0.0	0.2

評価を適切に行うための取組として挙げられているのは、「学習カードやワークシートの工夫」が総数において7割半ば、「指導内容に応じた学習活動の設定」が7割弱である。

「評価計画の作成」及び「評価時期の設定」は、総数のおおよそ1割である。

## 2 授業研究

### 【授業研究1】

#### 音楽的な感受を踏まえた思考力・判断力・表現力を育てる音楽科学習指導と評価

－小学校第6学年「いろいろなひびきを味わおう」における、キーワードを基にした授業の組立てと評価の工夫を通して－

### 1 題材名

いろいろなひびきを味わおう

### 2 題材の目標

全体の響きを味わって聴いたり，声部の役割を生かし，全体として調和のとれた表現をしたりする。

### 3 題材設定の理由

本題材において扱う学習指導要領の内容は，第5学年及び第6学年「A表現」(1)歌唱の事項エ，(2)器楽の事項エ，「B鑑賞」の事項イ，〔共通事項〕のうち音色，音楽の縦と横の関係，変化である。これらを受けて，全体の響きを感じ取りながら，工夫して表現したり，味わって聴いたりする学習を展開する。

本題材における主な思考力・判断力・表現力は，響きの違いを感じ取る力（思考力），各声部の役割に合った表現を考える力（思考力），響きのよさや面白さを捉える力（判断力），声部の役割に合った表現の方法を見いだす力（判断力），いろいろな響きから感じ取ったり捉えたりしたことや声部の役割に合った表現にするための自分の考えを言語等で表す力（表現力）であると捉える。

児童は，これまでに，身近な楽器の音色の特徴や違い，楽器の組み合わせ方による響きの違いなどに気付き，それらを生かして表現を工夫する学習を行ってきた。しかし，声部の役割を考えて歌ったり演奏したりする学習経験はほとんどない。

そこで，表現の学習では，各声部の役割を考え，それを基に音の組合せを工夫したり，強弱を付けたりして合わせて表現する。鑑賞の学習では，楽器の違いによる全体の響きの変化を感じ取りながら聴く。これらの学習を通して，全体として調和のとれた表現をしたり，いろいろな響きを味わって聴いたりすることができるようにする。そして，本題材における思考力・判断力・表現力を育てていきたいと考える。

### 4 教材

① 「星空はいつも」 芙龍明子 作詞／浦田健次郎 作曲

② 「ラバースコンチェルト」 デニーランデル・サンデーリンザー 作曲／石桁冬樹 編曲

③ 「熊蜂の飛行」 リムスキー＝コルサコフ 作曲

④ 「歓喜」（組曲「王宮の花火の音楽」から） ヘンデル 作曲

## 5 主題に迫る具体の手立て

現在、小学校高学年における音楽科の授業は、週1時間程度である。その中で、音楽のよさや面白さなどを感じ取りながら、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育てていくことが求められている。このような力を育てていくためには、意図的・計画的に学習を進めていくことが必要であると考え。

そこで、題材の指導計画を基に、毎時間の指導のねらいを明確にし、児童がどの程度達成できたのかを分析し、次時の指導に当たれるようにしたいと考える。そのために、毎時間の指導のねらいをより具体化したキーワードを設定し、それを基に授業を組み立てたり、評価を工夫したりできるようにする。

### (1) キーワードを基にした授業の組立て

キーワードの設定に当たっては、その時間の指導のねらいや評価規準から、具体的な児童の姿を想定し、そこからキーワードを見いだしていくようにする。そして、そのキーワードを基に、教材、学習課題、学習活動、学習形態、発問などを吟味し、授業を組み立てていく。

### (2) キーワードを基にした評価の工夫

授業を組み立てていく際に設定したキーワードを基に、児童の学習状況などを評価する。そして、学習状況に応じた手立てを講じたり、授業展開や学習活動を工夫したりする。また、授業の中で、児童は、音楽から聴き取ったことや感じ取ったこと、表現について考えたことなど、様々なことを音や言葉で表現する。それらの音や言葉が何を意味しているのかを判断する際にも、キーワードが活用できると考える。

(1)及び(2)から、指導のねらいをより具体化したキーワードを設定することで、学習指導と評価を一体的に進めることができるようにする。

## 6 授業の実際

### (1) 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
①各声部の歌声や楽器の音、全体の響きを聴きながら、自分の声や音を友達の声や音と調和させて演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 ②楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている	①互いの歌声や楽器の音、音の重なりや音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取っている。 ②声や音を重ねて演奏する表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願	①主な旋律や副次的な旋律、全体の響きを聴きながら、自分の声や音を友達の声や音と調和させて演奏している。	①楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴いている。



る。	い、意図をもって いる。	
----	-----------------	--

※太字の四角囲みは、本題材における思考力・判断力・表現力に係る評価規準である。

(2) 学習活動と評価の計画（8時間扱い）

次	ねらい	主な学習活動	(共通事項)	評価規準
第1次 (3) 【知覚・感受】	○声の重なり合う響きや、声と楽器の音が重なり合う響きを感じ取る。 ○声部の役割に気付く。	④ 「星空はいつも」 ・二部合唱をする。 ・合唱奏をする。  ・主旋律、副旋律、伴奏のそれぞれの役割を考える。	音色 音楽の縦と横の関係 変化	アー① イー①  イー①
第2次 (2) 【知覚・感受】 【思考・判断】	○楽器の組合せによる曲想の変化を感じ取る。	④ 「熊蜂の飛行」, 「歓喜」 ・演奏する楽器の音色を手掛かりに音楽を聴く。  ・楽器の組合せによる響きの違いを感じ取る。		アー② エー①  エー①
第3次 (3) 【知覚・感受】 【思考・判断】	○声部の役割を生かして合奏する。	④ 「ラバースコンチェルト」 ・四つの声部の楽器を選び合奏する。  ・声部の役割を考えて表現の工夫をする。  ・声部の役割を生かして演奏する。		アー① イー①  イー②  ウー①

7 授業の分析と考察

(1) キーワードを基にした授業の組立て

本題材では、第1次から、キーワードを設定して授業を組立てていった。キーワードを設定するに当たっては、まず、本時のねらい及び評価規準から、本時の主な学習活動における《期待される児童の反応》を予想した。そして、その《期待される児童の反応》から、授業の中で児童に気付いてほしい、捉えてほしい、理解してほしいなど、より具体的な指導のポイントとなることをキーワードとして整理した。このようにして設定したキーワードを基に、教材、学習課題、学習活動、学習形態、発問などを考え、授業を組み立てた。資料1は、第3次の第2時におけるキーワードである。そして、資料2 (p. 8) は、このキーワードから組み立てた本時の展開案の1である。

資料1 本時のキーワード

○声部の役割 主旋律：どんな曲かを表す 副旋律：主旋律を助ける 和音：響きを豊かにする 低音：支える ○声部の役割を生かす
--

資料2 本時の展開案の1

○ねらい 声部の役割を理解し、役割を意識しながら合奏する。	
学習内容と主な学習活動	㊦イー② 声や音を重ねて演奏する表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願い、意図をもっている。
1 本時の課題をつかむ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">             声部の役割を感じ取ろう。           </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">             《期待される児童の反応》              ・主旋律は、音楽を決める大事な役割なので、<u>大きくはっきり</u>と演奏する。              ・副旋律は、旋律を助ける役割なので、<u>なめらかに、優しく</u>演奏する。              ・和音は、全体の響きを豊かにする役割なので、<u>やわらかく、しっかりと伸ばして</u>演奏する。              ・低音は、合奏全体を支える役割なので、<u>はきはき</u>と演奏する。           </div>
2 声部の役割を理解する。 (1) 主旋律、副旋律、和音、低音と順に抜いて合奏をし、気が付いたことを伝え合う。 (2) 合奏で気が付いたことを基にして、主旋律、副旋律、和音、低音のそれぞれの役割を考える。	
3 各声部の役割を意識して合奏する。 (1) 各声部をどのように演奏したらよいか、各声部で話し合う。 (2) 合奏する。	
4 本時のまとめをする。 (1) 学習カードを記入する。 (2) 次時の学習内容を知る。	
※下線は、思いや意図を表している。	

本時の評価規準は、「音楽表現の創意工夫」イー②である。つまり、演奏に対する思いや意図をもっている状況の評価する時間である。本時の展開案の1において、児童がもつであろう思いや意図を示した《期待される児童の反応》には、それぞれの声部がどのような演奏をしたいかが示されている。しかし、「大きく」、「はっきり」、「なめらかに」、「優しく」、「やわらかく」、「しっかりと」、「はきはき」などの言葉からは、具体的にどのように演奏をすればよいのかが分からない。そこで、どのような思いや意図をもたせたいのか、そのためにどのような活動が必要かを考え、改めて授業を組み立てた。

資料3 本時の展開案の2

○ねらい 声部の役割を捉え、役割を生かした表現の仕方を工夫する。	
学習内容と主な学習活動	㊦イー② 声や音を重ねて演奏する表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願い、意図をもっている。
1 本時の課題をつかむ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">             声部の役割を生かした演奏の仕方を考えよう。           </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">             《期待される児童の反応》              ・主旋律は、<b>最も目立たせる</b>。              ・副旋律は、<b>主旋律より少し弱く</b>。              ・和音は、<b>副旋律より少し弱く</b>。              ・低音は、<b>和音と同じくらい</b>。           </div>
2 声部の役割を捉える。 (1) <b>各声部を順に抜いた合奏と全部の合奏を比べて気が付いたことを話し合う</b> 。 (2) <b>声部の役割を捉える</b> 。	
3 <b>声部の役割を生かした表現の仕方を工夫する。(一斉)</b> (1) <b>音にして試しながら、声部の役割を生かしたバランスを考える</b> 。 (2) 合奏する。	
4 本時のまとめをする。 (1) 学習カードを記入する。 (2) 次時の学習内容を知る。	
※下線は、思いや意図を表している。 ※展開案の1からの変更点を太字で示している。	

資料3 (p. 8) は本時の展開案の2である。本時の展開案の2においては、キーワードの一つである「声部の役割を生かす」とはどのようなことなのかを再考し、全体の中での各声部のバランス(音量)に着目し、《期待される児童の反応》を再度予想した。そして、学習課題、学習活動、学習形態、発問などを整理していった。

本時は、展開案の2で実施した。役割を捉える際、主旋律、副旋律、和音、低音を順に抜いて合奏をし、全部で合奏した時と比べる活動を位置付けた。「主旋律がないと何の曲か分からない。」、「和音がないと、合奏全体の響きが物足りない。」など、それぞれの声部が全体の中でどのような役割になっているのかを意識して捉えることができた。また、声部の役割を生かした表現の仕方を工夫する活動では、音にして試しながら、各声部のバランス(音量)を具体的に工夫することができた。このような活動の中で、児童は、思考・判断し、どのように演奏したらよいのか、表現に対する思いや意図をもつことができたと考える。資料4は、その時の教師と児童のやりとり(抜粋)を示したものである。

#### 資料4 教師と児童のやりとり(抜粋)

○和音の大きさを考える場面  
T: では、次に、和音を考えてみよう。○○さん、前に出て下さい。  
和音の人は、せっかくだから思い切り吹いて下さい。他の人はふつうにだよ。  
(和音の音量を大きくした演奏)  
C: 主旋律や副旋律より目立ってて、響きが豊かになっていない感じがした。  
C: 和音の方が目立ってて、ラバースコンチェルトじゃない。ビッグコンチェルト!  
T: 今度は小さく。  
(演奏)  
C: 和音が聞こえない。スモールコンチェルト。  
C: 響きが豊かじゃない。  
T: どうしたらいい?  
C: 普通。  
T: 普通というのが一番難しいね。主旋律、副旋律よりも?  
C: 小さくする。  
(演奏)  
C: 今の方がよかった。  
C: 音量がちょうどいい。

資料5は、本時の学習のまとめとして自分のパートをどのように演奏するとよいかについて自分の考えをワークシートにまとめたものである。

#### 資料5 本時の学習のまとめ

- ・ 主旋律だから、小さいと曲の感じが伝えられないから、大きく、目立つように演奏した方がいいと思いました。主旋律が変わるだけで、音楽の感じが全然違ってしまふことを感じました。
- ・ 副旋律は、主旋律を助ける役割で、副旋律は主旋律よりも少し小さい音量にするとよいと思いました。理由は、小さすぎるとすい音楽になってしまうし、大きすぎると主旋律が目立たなくなってしまうからです。
- ・ 主旋律や副旋律よりも音量を小さくしたほうが和音としてのひびきをゆたかにする役割ができると分かりました。また、和音がぬけると何か足りない感じになることが分かりました。
- ・ 低音は、和音と同じくらいの音量にするといいです。なぜなら、低音は支える役割なので、大きすぎると支えられすぎている、小さすぎると支えられているのかわからない感じになってしまふとひびきが感じられなくなってしまうからです。また、低音がぬけてしまふとまとまりがなくなってしまう、音楽の感じがおかしくなります。

※下線は、思いや意図を表している。

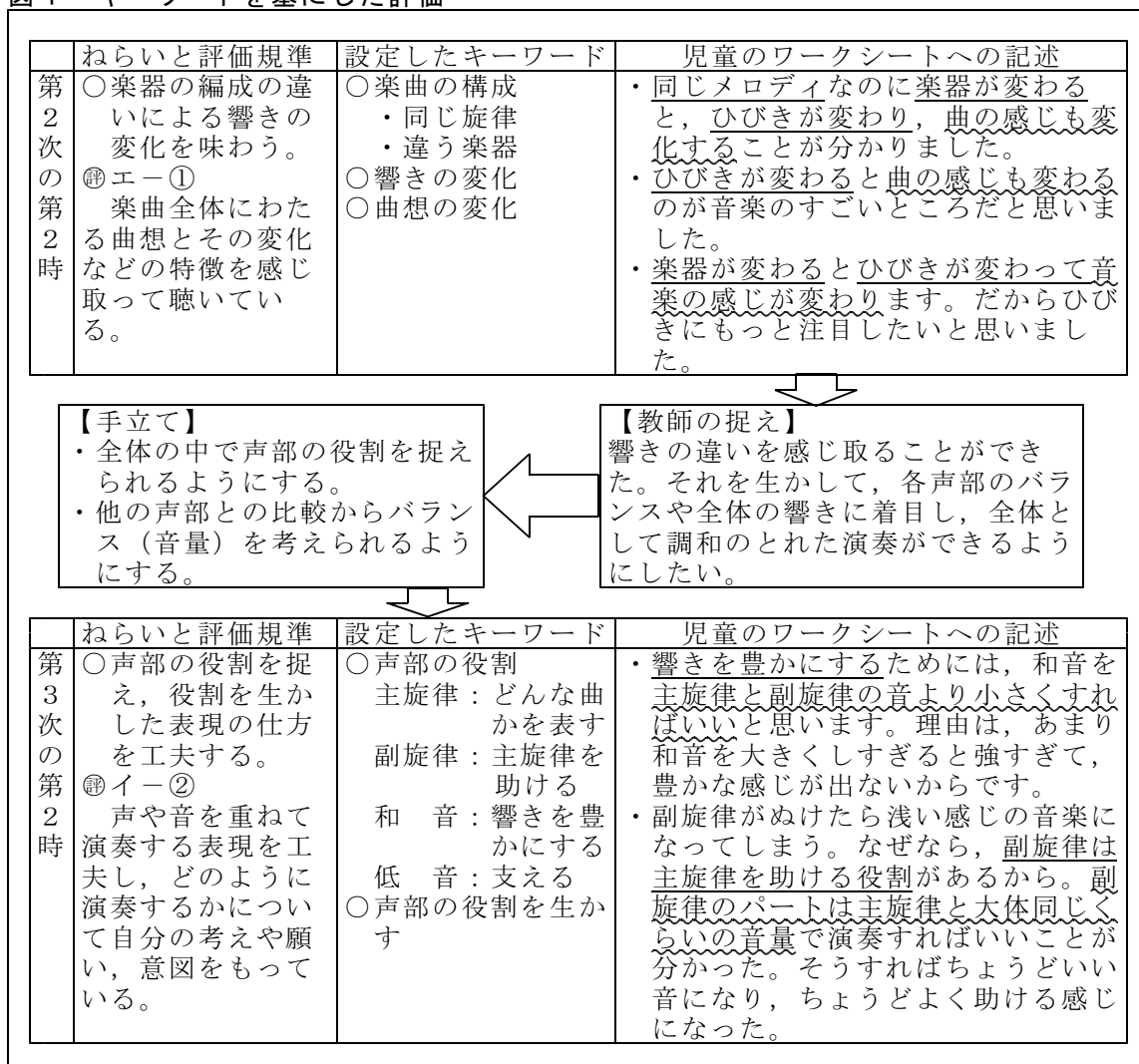
キーワードを基に授業を組み立てていくことは、学習活動の目的や内容を明確にすることができ、表現に対する思いや意図をもつことにつながったと考える。

## (2) キーワードを基にした評価の工夫

設定したキーワードを基に、授業の中では、資料4 (p. 9) のように児童が音楽から聴き取ったことや感じ取ったこと、表現について考えたことなど、音や言葉にしたことをその場で判断して返したり、その内容に応じて授業の軌道修正を図ったりすることができた。

授業後には、資料5 (p. 9) に示したようなワークシートや学習カードへの記述内容を分析し、次時の手立てを考えたり、授業展開や学習活動を工夫したりすることに、キーワードを基に評価したことを活用することができた。図1は、キーワードを基にした評価について示したものである。

図1 キーワードを基にした評価



※実線及び波線は、キーワードからの見取りである。実線は声部の役割、波線は声部の役割を生かすことに関わる思いや意図を表している。

(1)及び(2)から、キーワードを設定して授業を組み立てたり、設定したキーワードを基に評価を工夫したりしたことは、学習指導と評価を一体的に進めるための手立てとして有

効であったと考える。そして、児童が思考・判断し、どのように演奏したらよいか、表現に対する思いや意図をもったり、味わって聴いたりすることにつなげることができた。

## 8 授業研究の成果と課題

「いろいろなひびきを味わおう」の題材において、キーワードを基にした授業の組立てと評価の工夫を通して、音楽的な感受を踏まえた思考力・判断力・表現力を育てることを目指してきた。

声部の役割を生かし、全体の響きのバランスを工夫して合奏することをねらいとした学習では、声部の役割からキーワードを設定し、教材、学習課題、学習活動、学習形態、発問などを考えて、授業を組み立てていった。児童は、それぞれの声部が全体の中でどのような役割になっているのかを捉えたり、音にして試しながら音量のバランスを具体的に工夫したりすることができた。このような活動において、児童は、思考・判断し、どのように演奏したらよいか、表現に対する思いや意図をもつことができたと考える。また、キーワードを基に児童の発言や活動を見取っていくことで、児童のつまづきを捉え、個に応じた指導をすることもできた。さらに、授業後にキーワードを基に授業を振り返ることで、次時の授業展開を工夫することにつなげていくこともできた。

これらのことから、キーワードを基に学習指導と評価を一体的に進めたことは、児童の思考力・判断力・表現力を育てることにつながったと考える。

キーワードを基にした授業の組立てと評価の工夫は、授業のねらいを明確にし、児童の学習状況を的確に捉える上で有効な手立てであることが分かった。指導のねらいに即したキーワードの設定と活用の仕方について、今後も研究を重ねていきたい。

## 【授業研究 2】

### 音楽的な感受を踏まえた思考力・判断力・表現力を育てる音楽科学習指導と評価

－中学校第1学年「曲想にふさわしい表現をしよう」における思いや意図をもって表現するための学習活動と評価の工夫を通して－

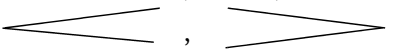
#### 1 題材名

曲想にふさわしい表現をしよう

#### 2 題材の目標

歌詞の内容と強弱、強弱と曲想とのかかわりを感じ取り、強弱の働きを生かして、曲想にふさわしい歌唱表現をする。

#### 3 題材設定の理由

本題材において扱う学習指導要領の内容は、第1学年「A表現」(1)歌唱の事項ア、ウ、〔共通事項〕のうちアの音楽を形づくっている要素から、旋律、テクスチャ、強弱、速度、イの用語や記号から、*mp*, *mf*, *f*, , *rit.*, *a tempo* である。これらを受けて、歌詞の内容や音楽を形づくっている要素から曲想を感じ取り、工夫して曲想にふさわしい歌唱表現をする学習を展開する。

本題材における主な思考力・判断力・表現力は、強弱の働きを生かすために工夫する力（思考力）、強弱の働きを生かした表現にするための方法を見いだす力（判断力）、強弱の働きを生かすための工夫を言語等で表す力（表現力）であると捉える。

これまでに、歌唱では「夢の翼」、「夏の思い出」、鑑賞では「魔王」の楽曲を通して、曲想と強弱に焦点を当てて学習を行ってきた。しかし、感じ取った強弱の働きを実際の表現に生かしたり、表現を工夫したりして、曲想にふさわしい歌唱表現をするところまでには至っていない。

本題材の指導に当たっては、強弱の働きを生かすことによって、曲想にふさわしい歌唱表現をすることができる合唱曲「時を越えて」を教材とする。そして、まず、曲想を感じ取るために、歌詞の内容を理解したり、強弱の働きが生み出す雰囲気を知覚・感受したりする活動を位置付ける。次に、感じ取った曲想にふさわしい歌唱表現にするために、強弱の働きを生かす工夫をする。このような活動を通して、思いや意図をもって曲想にふさわしい歌唱表現ができるようにしたいと考える。そして、本題材における思考力・判断力・表現力を育てていくことにつなげたいと考える。

#### 4 教材

⑧ 「時を越えて」 梅野知子 作詞・作曲

#### 5 主題に迫る具体の手立て

(1) 思いや意図をもって表現するための学習活動の工夫

思いや意図に関わる学習状況の評価は、「音楽表現の創意工夫」の観点で行われる。この評価の観点は、音楽科における思考力・判断力・表現力に係る観点である。その観点の趣旨から、生徒が、音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受しているか、それを基に思考・判断しながら表現を工夫し、表現に対する思いや意図をもつことができているか、これら二つの学習状況の評価していく。そのためには、知覚・感受する活動や思考・判断に係る表現を工夫する活動を位置付けることが必要であると考えられる。

そこで、本題材では、第2次に、知覚・感受に関わる楽曲全体の強弱の変化から歌詞と強弱、強弱と曲想とのかかわりを感じ取る活動と思考・判断に関わる強弱の働きを生かすための工夫をする活動を位置付ける。

ア 楽曲全体の強弱の変化から歌詞と強弱、強弱と曲想とのかかわりを感じ取る活動  
楽譜にどのような強弱記号が付いているかを調べ、強弱による曲想の変化を感じ取り、強弱記号が付いている意味を考えていく。この活動から、曲想にふさわしい表現にするためには、強弱の働きを生かす工夫をすることが必要であることに気付くようにする。

イ 強弱の働きを生かす活動

強弱記号が付いている意味を踏まえながら、どのように表現したらよいかを試行錯誤する。その際、演奏を録音して実際の自分たちの演奏を聴き、そこから課題を見だし、更に表現を工夫していけるようにする。

思いや意図に関わる評価の観点である「音楽表現の創意工夫」から構想したア、イの二つの活動を通して、表現に対する思いや意図をもてるようにする。

## (2) 思いや意図をもって表現するための評価の工夫

思いや意図に関わる評価の観点である「音楽表現の創意工夫」から構想した二つの活動において、その学習状況の評価していく。

そのために、具体的な視点を設ける。アの活動においては、評価の観点「音楽表現の創意工夫」イー①から、強弱記号が付いている意味を歌詞の内容や曲想から捉えているかということ視点とする。また、イの活動においては、評価の観点「音楽表現の創意工夫」イー②から、強弱記号が付いている意味に合った表現を工夫し、強弱の働きを生かした表現にするための具体的な表現の方法を見いだしているかということ視点とする。

これらの視点で、生徒の活動の様子を見取ったり、発言内容やワークシートの内容等を分析したりしていく。そして、個に応じた手立てを講じたり、授業展開を工夫したりすることで、生徒が、思いや意図をもてるようにする。

## 6 授業の実践

### (1) 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
①「時を越えて」の歌詞が表す情景や心情、その曲の表情や味わいに関心をもって	①「時を越えて」の旋律、テクスチャ、強弱、速度を知覚し、それらの働きが生み出す	①「時を越えて」の歌詞が表す情景や心情、曲の表情や味わいを生か

いる。 ②「時を越えて」の歌詞が表す情景や心情、曲の表情や味わいを生かし、音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想を感じ取っている。 ②曲想にふさわしい表現にするために音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	した音楽表現をするために必要な発声、言葉の発音の技能を身に付けて歌っている。
---	--	--

※太字の四角囲みは、本題材における思考力・判断力・表現力に係る評価規準である。

## (2) 学習活動と評価の計画（7時間扱い）

次	ねらい	主な学習活動	(共通事項)	評価規準
第1次 (3) 【知覚・感受】	○歌詞の内容や曲想を捉える。	⑧「時を越えて」 ・範唱CDを聴き、旋律やテクスチャ、強弱などを知覚・感受する。 ・自分の声域に合ったパートを考え、自分のパートの音とりをし、全体で合唱する。 ・知覚・感受したことを基に、歌詞の内容や曲想について考える。	旋律 テクスチャ 強弱	アー①  ウー①  イー①
第2次 (3) 【思考・判断】	○曲想にふさわしい表現の方法を見いだす。	・楽曲全体の強弱の変化から歌詞と強弱、強弱と曲想とのかかわりを感じ取る。 ・強弱の働きを生かす工夫をする。	↓	アー② イー① イー②
第3次 (1) 【思考・判断】	○曲想にふさわしい歌唱表現をする。	・強弱の働きを生かして歌う。		ウー①

## 7 授業の分析と考察

### (1) 思いや意図をもって表現するための学習活動の工夫

ア 楽曲全体の強弱の変化から歌詞と強弱、強弱と曲想とのかかわりを感じ取る活動生徒は、本題材に至るまでに、三つの題材を通して、強弱の意味や同じ強弱記号でも表情が違うこと等を学習してきた。表1 (p.15) は、本題材「曲想にふさわしい表現をしよう」と関連する題材を示している。本題材では、これらの題材の学習を踏まえて、歌詞と強弱、強弱と曲想のかかわりが感じ取りやすい楽曲を選曲する。そして、これまでの学習経験を生かして、歌詞と強弱、強弱と曲想とのかかわりが感じ取れるようにした。

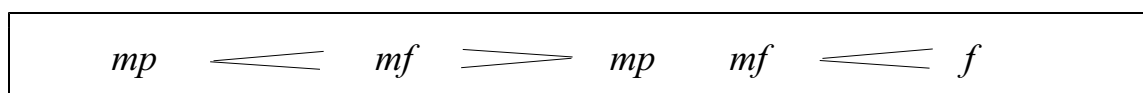


表1 本題材「曲想にふさわしい表現をしよう」と関連する題材

	題材	主な教材	主な学習内容
4月	曲想の変化を生かして	⑧ 夢の翼	・調性から曲想の変化 ・歌詞と強弱とのかかわり
6月	歌詞と強弱とのかかわりを感じ取って	⑧ 夏の思い出	・言葉の抑揚や旋律の流れと強弱とのかかわり ・歌詞と強弱とのかかわり
7月	物語と曲想とのかかわり	⑧ 魔王	・登場人物の感情と強弱とのかかわり
10月	曲想にふさわしい表現をしよう	⑧ 時を越えて	・歌詞と強弱とのかかわり ・強弱と曲想とのかかわり ・強弱の働かせ方

楽曲全体の強弱の変化から歌詞と強弱、強弱と曲想とのかかわりを感じ取る活動では、楽譜にどのような強弱記号が付いているかを調べたり、強弱記号が付いている意味を歌詞の内容や曲想から考えたりした。図1は、楽譜に付けられた強弱記号を出てくる順に並べたものである。

図1 楽譜に付けられた強弱記号を出てくる順に並べたもの



旋律の動きや歌詞の内容から、曲の山場に向かってどんどん強くなっていくことに気付くことができた。ここでの気付きとこれまでの題材の学習での気付きから、強弱記号が付いている意味を、①「歌詞の情景」（歌詞に描かれている景色や物事の様子）、②「歌詞の心情」（歌詞に描かれている感情）、③「曲の盛り上がり」（旋律や歌詞とのかかわりがある強弱）の三つに分類することができた。表2は、強弱記号が付いている意味について各自がワークシートにまとめたものである。

表2 強弱記号が付いている意味（ワークシートからの抜粋）

強弱記号の意味 ♪25小節目 <i>mf</i> 歌詞（この日の喜びと）		
生徒A	「歌詞の心情」	思い出を振り返るような感じ（喜びだからうれしそう）
生徒B	「曲の盛り上がり」と「歌詞の心情」	「喜び」と書いてあるので、明るい声で盛りあがる感じ
強弱記号の意味 ♪27小節目 <i>mp</i> 歌詞（この日の悔しさを）		
生徒A	「歌詞の心情」	悔しかった日や悲しかった日を思い出している感じだから少し小さい
生徒B	「曲の盛り上がり」と「歌詞の心情」	悔しさが伝わるように少し小さく、暗い感じ

この分類を通して、歌詞と強弱、強弱と曲想とのかかわりを感じ取ることができた。そして、曲想にふさわしい表現をするためには、強弱の働きを生かすための工夫をすることが必要であることに気付くことができた。

#### イ 強弱の働きを生かす活動

強弱記号が付いている意味を踏まえ、強弱の働きを生かすためには、どのような表現をしたらよいか、具体的な表現の方法を見いだす活動を行った。

はじめに、生徒が、自分たちの表現の課題を見付けられるようにするために、演奏を録音して聴く活動を行った。そして、表現の工夫をする四つのポイントを設定した。

ポイント1では、「『忘れないように』のテノールが大きすぎる。」「アルトのハミングが聞こえない。」など、バランスにかかわる気付きが出された。そこで、25小節目から楽譜を見ていくと、29小節目の「忘れないように」は、テノールだけが歌うところで、これが次の「深く」につながっていく大切な部分であることに気付くことができた。それに伴って、ハミングをしているソプラノとアルトは、テノールの飾りであることにも気付くことができた。そして、テノールを目立たせるようにするために、同じ強弱記号であっても、ソプラノとアルト、テノールそれぞれの *mf* の表現をバラスから考えて工夫していった。以下は、本時の展開（略案）である。

#### ○本時の目標

自分たちの表現から工夫するポイントを見付け、強弱の働かせ方などを工夫することを通して、思いや意図をもつ。

学習内容と主な学習活動	教師の働きかけ
1 本時の学習課題を確認する。 表現の工夫をしよう。	
2 自分たちの表現を録音して聴く。 ○気付いたことから、工夫するポイントを見付ける。 (例) ・強弱が感じられない ・言いたいことが伝わらない ・バランスが悪い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの表現を録音し、それを聴くことで、課題（工夫するポイント）が見付けられるようにする。</li> <li>・本時は、一斉で行うことで、みんなでひとつの音楽をつくっていけるようにする。</li> </ul>
3 ポイント1の表現の工夫をする。 ※活動の進め方 ・楽譜を見る。 ・強弱の意味を考える。 ・どのように歌ったらよいかを考える。 ・試してみる。（録音） ・録音を聴いて確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工夫するポイントについて、楽譜で確認し、テクスチャや旋律の動き、強弱の働きに目が向けられるようにする。</li> <li>・個々から出された考えを基に実際に歌ってみる。その際、録音をして、自分たちの考えた通りに歌えているかどうかを確認できるようにする。</li> </ul>
4 本時のまとめをする。 ○どのように歌ったらよいか、自分の考えをワークシートにまとめる。	②イー② 曲想にふさわしい表現にするために音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 【観察，発言，ワークシート】

思いや意図に関わる評価の観点である「音楽表現の創意工夫」から構想したア、イの二つの活動を通して、生徒は、曲想にふさわしい表現をするための方法を見いだすことができ、表現に対する思いや意図をもつことにつながったと考える。

## (2) 思いや意図をもって表現するための評価の工夫

アの活動においては、強弱記号が付いている意味を歌詞の内容や曲想から捉えているかということを見取るために、ワークシートを活用した。このワークシートには、強弱記号が付いている意味とその根拠を示せるようにした。また、感じ取ったことなどを全体で整理する活動の後に、個でワークシートにまとめる活動を位置付けた。板書等に手掛かりとなることが示されていることから、生徒は、それを基に強弱記号が付いている意味や根拠をワークシートにまとめることができた。表2 (p. 15) は、生徒がワークシートにまとめたもの(抜粋)である。


イの活動においては、強弱記号が付いている意味に合った表現の工夫をし、強弱を生かした表現にするための具体的な表現の方法を見いだしているかということ、生徒の活動の様子、実際の歌唱表現、発言内容やワークシートに記述した内容から見取っていった。

自分たちの表現の課題を見付けられるようにするために行った演奏を録音して聴く活動では、自分たちの表現を客観的に聴きながら、強弱を表現するための発声や強弱に関わる各声部のバランスなどたくさんの課題を見付けることができた。そこで、活動内容の焦点化を図るために、表現を工夫するポイントを四つに絞ることにした。資料1は、ポイント1の表現を工夫した後に、「どのように歌いたい(思いや意図)」を記述したものである。生徒は、強弱記号が付いている意味を踏まえながら、表現の方法を見いだしていることが分かった。

### 資料1 ポイント1の表現に対する思いや意図(ワークシートからの抜粋)

○ポイントごとにどんな歌い方をするとよいか、自分の考えをまとめよう。

<ポイント1>

29小節目～ *mf*  *f* 「忘れないように深く胸に刻み込もう」

- ・次がこの曲のサビなので、だんだん盛り上げていく感じで歌う。クレッシェンドがしっかり伝わるようにはっきり歌いたい。クレッシェンドのところはおなかに力を入れてだんだん大きくしていく。
- ・「忘れないように」の後で深く息を吸ってだんだん大きくしていく。そして最後まで音量を保つように歌いたい。
- ・テノールの「忘れないように」を目立たせるように歌う。

※実線は強弱記号が付いている意味、波線は表現の方法

更に表現を工夫する活動を進めていくと、生徒の発言や記述内容に変化が見られた。資料2 (p. 18) に示したポイント2の表現に対する思いや意図からは、声の表情に目を向けていることが分かった。

資料1及び2から、強弱の働きを生かす活動を通して、生徒は、強弱を生かした表現にするための表現の方法を見いだすことができたことが分かった。

これらのことから、思いや意図に関わる評価の観点である「音楽表現の創意工夫」か

ら具体的な視点を設けて生徒の学習状況を評価し、個に応じた手立てを講じたり、授業展開を工夫したり、活動内容の焦点化を図ったりしたことは、生徒が、思いや意図をもつことにつながったと考える。

#### 資料2 ポイント2の表現に対する思いや意図（ワークシートからの抜粋）

○ポイントごとにどんな歌い方をするとよいか、自分の考えをまとめよう。

<ポイント2>

39小節目～ *mf* 「変わる時が来るから」

- ・「変わる時が来るから」で声の質を少し変えて2番につながるように歌う。
- ・雰囲気がガラッと変わるように優しく、少しだけ前に体重をかけるようなつもりで歌う。
- ・今までの盛りあがっていた雰囲気から少し声の大きさを落として歌う。

※実線は強弱記号が付いている意味、波線は表現の方法、点線は声の表情

## 8 授業研究の成果と課題

本研究では、思いや意図をもって表現をするために、思いや意図に関わる評価の観点である「音楽表現の創意工夫」から知覚・感受に関わる活動と思考・判断に関わる活動を構想した。そして、その活動における学習状況を、「音楽表現の創意工夫」から具体的な視点をもって評価した。

知覚・感受に関わる活動については、題材同士の関連を図り、これまでの学習経験を生かし、学習が深められるようにした。今までの自らの授業を振り返ると、題材同士の関連についての意識が薄かったように思う。しかし、学習指導要領が改訂され、〔共通事項〕が設定されたことにより、音楽を形づくっている要素を位置付けることで、題材間の関連が図れるようになった。本題材とこれまでの題材の学習をつないでいる音楽を形づくっている要素は、「強弱」である。生徒は、これまでの学習を生かしながら、根拠をもって強弱記号が付いている意味を捉えていくことができた。そして、それを基に、思考・判断に関わる強弱の働きを生かす活動では、どのように表現したらよいかを考え、試行錯誤しながら、表現の方法を見いだしていった。また、これらの活動において、思いや意図に関わる評価の観点である「音楽表現の創意工夫」から具体的な視点をもって評価したことは、授業展開や学習活動の工夫、個に応じた手立て等に生かすことができ、思いや意図をもつことにつながったと考える。

このように、思いや意図に関わる評価の観点である「音楽表現の創意工夫」から活動を構想したり、具体的な視点をもって評価したりしたことは、生徒の思考力・判断力・表現力を育てるための手立てとして有効であったと考える。

今後は、思考・判断する活動の工夫改善を図り、表現の工夫を生かした音楽表現ができる力も併せて高めていきたい。

### 【授業研究3】

## 音楽的な感受を踏まえた思考力・判断力・表現力を育てる芸術科（音楽） 学習指導と評価

－高等学校第1学年音楽Ⅰ「和楽器のしらべ～箏に親しもう～」における  
表現と鑑賞の関連を図った学習活動と評価の工夫を通して－

### 1 題材名

和楽器のしらべ～箏に親しもう～

### 2 題材の目標

箏の奏法による音色の違いを感じ取り、音色の違いを生かして演奏したり、箏曲のよさや美しさを味わって聴いたりする。

### 3 題材設定の理由

本題材において扱う学習指導要領の内容は、音楽Ⅰ「A表現」(2)器楽の事項イ、エ、「B鑑賞」の事項イ、エ、音楽を形づくっている要素から音色、旋律である。これらを受けて、箏の奏法による音色の違いから箏の特徴を捉え、創造的に表現したり鑑賞したりする学習を展開する。

本題材における主な思考力・判断力・表現力は、箏の奏法による音色の違いを感じ取る力（思考力）、音色の違いを表現するために工夫する力（思考力）、箏曲のよさや美しさを捉える力（判断力）、音色の違いを表現するための方法を見いだす力（判断力）、聴き取った音色の違いや奏法について気付いたことなどを言語等で表す力（表現力）であると捉える。

題材の学習を始める前に、「さくら」と「六段の調」を聴かせた。「さくら」は生徒全員が「知っている。」と答えたが、中学校の鑑賞教材である「六段の調」については、自信をもって「知っている。」と答えられない様子であった。また、「さくら」については、実際に箏の演奏経験がある生徒も多かった。このことから、自ら音楽体験をすることは、音楽への興味・関心や理解を深めることにつながると考える。

そこで、本題材では、表現と鑑賞の関連を図ることで、箏に親しむとともに我が国の伝統音楽への関心も高めていきたいと考える。そのために、生徒にとってなじみのある「さくら」を演奏する活動（表現）、教師の範奏から箏の様々な音色に気付く活動（鑑賞）、音色の違いを生かして創造的に表現する活動（表現）、箏曲のよさや美しさを味わう活動（鑑賞）を位置付ける。このような活動を通して、本題材における思考力・判断力・表現力を育てていきたいと考える。

### 4 教材

⑧ 「さくら」 日本古謡

⑧⑨ 「六段の調」 八橋検校 作曲

## 5 主題に迫る具体の手立て

### (1) 表現と鑑賞の関連を図った学習活動の工夫

表現及び鑑賞の関連を図ることで、それぞれの学習における気付きや学びを生かしながら、表現及び鑑賞の学習を深めることができるようにする。そのために、本題材では、四つの活動を位置付ける。

#### ア 「さくら」を演奏する活動（表現）

本題材の導入として、箏への興味・関心を高めるために、生徒にとってなじみのある「さくら」を教材とする。そして、箏の音色を感じ取りながら演奏したり、基本的な奏法や姿勢を身に付けたりする。

#### イ 箏の様々な音色に気付く活動（鑑賞）

ここでは、二つの聴き比べを行う。一つは、右手の親指だけで演奏する「さくら」と冒頭の三小節だけで四つの奏法が使われている「六段の調」である。もう一つは、「六段の調」を通常の奏法で演奏したものと、すべて親指だけで演奏したものである。この二つの聴き比べを通して、音色を知覚・感受し、箏の音色の多彩さに気付けるようにする。

#### ウ 音色の違いを生かして創造的に表現する活動（表現）

イの活動において知覚・感受した箏の音色とその音色を出すための奏法（引き色、搔き爪、割り爪、後押し）の特徴を手掛かりに、試行錯誤しながら、四つの音色を表現したり、「六段の調」の冒頭の三小節の旋律を表現したりできるようにする。

#### エ 箏曲のよさや美しさを味わう活動（鑑賞）

「六段の調」を鑑賞する。イ及びウの活動を通して、生徒が見いだした「六段の調」を鑑賞するための手掛かりを基に鑑賞することで、「六段の調」のよさや美しさを感じ取れるようにする。

### (2) 表現と鑑賞の関連を図った評価の工夫

5(1)イに示した「箏の様々な音色に気付く活動（鑑賞）」における音色を知覚・感受する活動から見いだした音色と奏法の特徴を「音色」と「奏法」に分けて整理する。そして、これらを、5(1)ウに示した「音色の違いを生かして創造的に表現する活動（表現）」における評価の視点とし、自己評価及び相互評価に活用する。教師も同じ視点で生徒の学習状況を見取り、手立てを講じていく。このような評価を通して、生徒が試行錯誤しながら、音色の違いを表現するための方法を見だし、創造的に表現できるようにする。

## 6 授業の実際

### (1) 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
①箏の音色や奏法の特徴に関心を持ち、それらを生かして演奏	①「六段の調」の音色、旋律を知覚し、それらの働き	①箏の音色や奏法の特徴を生かした音楽表現をするため	①「六段の調」の音色、旋律、構成を知覚し、それらが

<p>する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>②「六段の調」の音色，旋律，構成に関心をもち，主体的に学習に取り組もうとしている。</p>	<p>が生み出す特徴や雰囲気などを感受しながら，楽器の音色や特徴ある奏法を生かした音楽表現を工夫し，どのように演奏するかについて表現意図をもっている。</p>	<p>に必要な奏法，姿勢，読譜の仕方などを身に付け，創造的に表している。</p>	<p>生み出す雰囲気を感受しながら，箏曲の特徴を理解して楽曲を解釈し，よさや美しさを味わって鑑賞している。</p>
--	---	--	---

※太字の四角囲みは，本題材における思考力・判断力・表現力に係る評価規準である。

## (2) 学習活動と評価の計画（5時間扱い）

次	ねらい	主な学習活動	音楽を形づくっている要素	評価規準
第1次 (1) 【知覚・感受】	○箏の歴史や楽器の仕組みを理解したり，演奏を通して箏の音色を感じ取ったりする。	<p>⑧ 「さくら」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・箏の歴史や楽器の仕組み，楽譜の読み方を学習プリントで確認する。</li> <li>・「さくら」の演奏をする。</li> </ul>	音色	アー①
第2次 (3) 【知覚・感受】  【思考・判断】	○「六段の調」を表現するために必要な奏法（引き色，掻き爪，割り爪，後押し）を身に付け，創造的に表現する。	<p>⑨⑩ 「六段の調」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの「六段の調」を聴き比べる。</li> <li>・箏の特徴ある音色や奏法をワークシートにまとめる。</li> <li>・様々な奏法を試す。</li> <li>・「六段の調」の冒頭を三人一組で練習する。</li> <li>・三人一組で演奏する。</li> </ul>	音色 旋律	エー① イー①  イー①  ウー①
第3次 (1) 【思考・判断】	○音色，旋律，構成を味わいながら鑑賞する。	<p>⑪ 「六段の調」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽曲の時代背景等を学習プリントを用いてまとめる。</li> <li>・「六段の調」の鑑賞をする。</li> </ul>	音色 旋律 構成	アー② エー①

## 7 授業の分析と考察

### (1) 表現と鑑賞の関連を図った学習活動の工夫

ア 「さくら」を演奏する活動（表現）

生徒にとってなじみのある「さくら」を取り上げたことで，生徒は，意欲的に演

奏に取り組むことができた。その中で、箏への興味・関心を高めたり、基本的な右手の奏法や姿勢、楽譜の読み方を身に付けたりすることができた。

イ 箏の様々な音色に気付く活動（鑑賞）

以下は、本時の展開（略案）である。

○本時の目標 「六段の調」に使われている箏の音色を聴き取ったり、奏法を試したりして、音色や奏法の特徴をつかむ。		
学習内容と主な学習活動	音楽を形づくっている要素	評価規準と評価方法
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <p>音色や奏法の特徴を見付けよう。</p> <p>2 「六段の調」（初段）を聴く。 （聴き比べ①） ○音色について気付いたことを話し合う。</p> <p>3 範奏を観察する。 ○どのように演奏しているのか気付いたことを話し合う。</p> <p>4 四つの奏法を試す。 ○音色や奏法について気付いたことを基に、互いに見合ったり聴き合ったりする。（グループ活動） ○音色と奏法の特徴をまとめる。（全体）</p> <p>5 二つの「六段の調」を聴き比べる。 （聴き比べ②） ○気付いたことを話し合う。</p>	音色	<p>エー① 「六段の調」の音色、旋律、構成を知覚し、それらが生み出す雰囲気を感じている。 【観察、発言、ワークシート】</p>

本時の聴き比べ（鑑賞）は、教師の範奏で行った。

聴き比べ①では、自分たちの演奏してきた「さくら」と「六段の調」（初段）を聴き比べ、音色の違いを見付ける活動を行った。生徒は、自分の言葉や擬音語を用いて、積極的に聴き取ったり感じ取ったりした音色を表現していた。また、初めて聴く旋律は、なかなか耳に入らないため、繰り返し弾いて聴かせたり、楽譜を提示したりした。資料1は、生徒に提示した「六段の調」の冒頭の三小節である。

資料1 「六段の調」冒頭の三小節の楽譜（筆者作成）

初段



楽譜に示されている記号を基に、生徒が聴き取ったり感じ取ったりした音色の仲間分けをし、奏法とつなげられるようにした。

また、奏法の特徴をつかめるようにするために、ビデオカメラを設置し、演奏をしている教師の手元をモニターに映して見せた。教師の範奏を聴いたり見たりした後に、奏法を試す活動を位置付けた。実際に奏法を用いて音を出してみることで、更に音色と奏法の特徴をつかむことにつながった。表1は、生徒が見付けた音色と奏法の特徴をまとめたものである。

表1 生徒が見付けた音色と奏法の特徴

記号	読み方	音色	奏法
ヒ	引き色	ビョーン 音が揺れる 伸ばしている時に音を曲げる 高い音から低い音へ	左手で糸をつまむ 左手でキュッと引っ張る 柱の方に引っ張る
ㄱ	搔き爪	ジャン 複数の音 重なった音	2か所同時に弾く 右手の中指で隣の糸も一緒に 手前に搔く
ㄴ	割り爪	ジャンジャン 重なった音が2回	搔き爪と同じ 右手の人差し指、中指の順に 手前に搔く
オ	後押し	ティウーン 低い音から高い音へ	左手（人差し指、中指）の二 本で糸を押す ギュッと押す

聴き比べ②では、通常の「六段の調」と親指だけで演奏した「六段の調」の雰囲気の違いを感じ取る活動を行った。生徒は、「全然違った。」、「様々な奏法を使わないと単調に感じた。」、「奏法を使った方が音に表情や雰囲気が出た。華がある。」、「後押しがあると味が出る。」など、奏法による曲の表情の変化に気付くことができた。

#### ウ 音色の違いを生かして創造的に表現する活動（表現）

はじめに、四つの奏法（引き色、搔き爪、割り爪、後押し）と音色の特徴を確認し、それらを手掛かりに、試行錯誤しながら四つの音色の違いが表現できるようにした。生徒は、グループ（三人一組）ごとに、互いの音を聴き合ったり、奏法を見合ったりしながら、「爪はどの角度で弾いているか。」、「左手はどう使っているか。」、「指をどちらに動かしたらよいか。」、「どのくらい押したらよいか。」、「音が高い音から低い音に変化しているか。」など、意見を交換したり、改善点を指摘し合ったりしながら活動を進めることができた。また、グループ活動の中で生まれた、糸を引く方向や爪を動かす方向などの新たな疑問点について、改めて範奏を聴いたり見たりすることで、手掛かりを見いだし、グループで試行錯誤する姿も見られた。このような活動を通して、音色の違いを表現するための方法を見いだすことができた。

次に、見いだした音色の違いを表現するための方法を基に、「六段の調」の旋律を表現し、グループごとに発表した。授業を始めた段階では、生徒にとって難しい旋律であっ

たが、練習を重ねていくうちに、旋律の流れを感じて演奏する姿が多く見られるようになった。発表では、違う指で弾いてしまったり、別の糸を押してしまったりという失敗もあったが、音色の違いを生かして創造的に表現することができた。

#### エ 箏曲のよさや美しさを味わう活動（鑑賞）

題材の学習の最後に「六段の調」の鑑賞を行った。資料2は、生徒の鑑賞文である。

#### 資料2 「六段の調」の鑑賞文

- ・思っていたよりも長く、様々な奏法が出てきて1回1回に驚きました。やってみたいと思うものから、どうやっているんだろうと疑問になるものまでありました。一番おお!!となったのが急に速くなったり緩やかになつたりしたことです。ゆっくり→速い→ゆっくりとなっていたのがおもしろかったです。最初から最後まで聴いて、様々な奏法と音がおもしろく、聴いている人を驚かせる曲ですごくよかったです。
- ・引き色や後押しで弾いた時に、しっかりと音が変わっていて、すごくきれいな演奏だった。四段～六段の最初の方は、すごくテンポが速くて本当に「六段の調」を弾いているのかなあと思うほどでした。
- ・緩やかだったり速くなつたり先生から一段、二段と言われなければ分からなかったです。聴いているとき、音の変化や一つ一つの指使いがとてもすごいなと思いました。私たちがやっどできたところよりも、もっと難しいところはたくさんありました。私はあまり「箏」というものに興味がなかったけれど、「六段の調」を聴いて箏ってかっこいいと思いました。
- ・同じ曲の中でいろいろな奏法が使われていてすごいなと思いました。それに大きさを強調していたりしているところがよいと思います。段が変わるごとに音色も変わっていました。

※実線は音色や奏法、波線は速度、点線は強弱に関わる内容を示している。

イ及びウの活動を通して、生徒なりに「六段の調」を鑑賞するための手掛かりを見いだすことができた。それを基に鑑賞することで、音色や奏法だけでなく、速度の揺れ（序破急）や強弱の変化なども感じ取りながら、「六段の調」のよさや美しさを味わっていることが分かった。

アからエの四つの活動を位置付けて表現と鑑賞の関連を図ったことは、創造的に表現したり、味わって聴いたりするための手立てとして有効であった。

#### (2) 表現と鑑賞の関連を図った評価の工夫

表現の学習において、表1（p.23）に示した鑑賞の学習における音色を知覚・感受する活動から見いだした「音色」と「奏法」を視点とした自己評価及び相互評価を取り入れた。自己評価では、視点を基に、自分の課題を具体的に持ち、その課題を解決するために試行錯誤することができた。また、資料3（p.25）は、グループの評価表である。自己評価と同じ視点での相互評価においては、互いの音を聴き合ったり、奏法を見合ったりして、客観的に良い点や改善点などについて意見を交換したり、指摘し合ったりすることができた。このように、同じ視点による自己評価及び相互評価を取り入れたことで、音色の違いを表現するために個やグループで思考・判断することができ、音色の違いを表現するためのよりよい方法を見いだすことにつながった。

教師は、自己評価や相互評価において、「C」となっている生徒について、手立てを講じることで、「音色」と「奏法」についての理解を図り、「B」または「A」と判断できる状況にすることができた。

表現の学習に、鑑賞の学習において知覚・感受したことを視点とした自己評価及び相互評価を取り入れたことは、生徒の思考・判断を促し、創造的に表現するための手立て

として有効であったと考える。また、この評価は、本題材の評価規準である「音楽表現の創意工夫」及び「音楽表現の技能」における学習状況を評価したり、指導に生かしたりする際の材料として活用することができた。

資料3 グループの評価表

奏法 \ 名前			
五で引き色	A・B・C	A・B・C	A・B・C
一と二で掻き爪	A・B・C	A・B・C	A・B・C
三と四で割り爪	A・B・C	A・B・C	A・B・C
七で後押し	A・B・C	A・B・C	A・B・C

A	弾き方	○	音色	○
B	弾き方	○	音色	△, 弾き方 △ 音色 ○
C	弾き方	△	音色	△

## 8 授業研究の成果と課題

表現と鑑賞の関連を図った学習活動の工夫をしたことは、箏の音色と奏法の特徴を捉え、目指す音色に近づけるために、生徒同士で意見を交換したり、教師に質問したりしながら主体的に思考・判断することにつながった。また、四つの奏法を使って自分でも旋律を演奏したことで、「六段の調」を鑑賞した際、「自分で弾いた引き色や割り爪の音色よりきれいだった。」「やっていない奏法も使われていて面白かった。」など、経験を生かしてより具体的に音色に注目して全体を聴いていたことが、ワークシートからも読み取れた。

また、表現の学習において、鑑賞の学習における知覚・感受する活動から見いだした「音色」と「奏法」を視点とした自己評価及び相互評価を取り入れたことで、生徒は、自分の課題を具体的にして取り組み、音色の違いを表現するための方法を見いだすことができた。また、教師も「音色」と「奏法」を視点に具体的に助言指導をしたり、自己評価及び相互評価を手掛かりに、個に応じた手立てを講じたりすることができた。そして、「六段の調」の演奏では、それぞれが、見いだした音色の違いを表現するための方法で、音色の特徴を生かしながら創造的に表現することができた。

これらのことから、表現と鑑賞の関連を図った学習活動や評価の工夫をしたことは、生徒が、目指す音色に近づけるために思考・判断し、音色の特徴を生かしながら創造的に表現したり、音色のよさなどを味わって聴いたりすることにつながり、思考力・判断力・表現力を育てるための手立てとして有効であったと考える。

今後は、更に領域の関連を図った題材構成を工夫したり、ねらいに合った学習形態を工夫したりしていきたい。また、適切な評価ができるようにするために、評価規準の設定や評価方法について、今後も研究を進めていきたい。

### 3 研究のまとめ

#### (1) 成果

〔共通事項〕を基に、思考・判断し、表現する一連の過程を重視した授業づくりを通して、音楽的な感受を踏まえた思考力・判断力・表現力を育てる音楽科学習指導と評価について研究を進めた結果、次のような成果が見られた。

ア 指導のねらいに即した知覚・感受する活動及び思考・判断する活動の工夫

- ・小学校「A表現 歌唱・器楽」・「B鑑賞」においては、キーワードを基に授業を組み立てたことで、指導のねらいに即した学習課題や学習活動を設定することができ、思考・判断し、思いや意図をもって表現したり、味わって聴いたりすることにつながった。
- ・中学校「A表現 歌唱」において、思いや意図をもって表現するための学習活動の工夫として、題材の評価規準の一つである「音楽表現の創意工夫」から活動を構想し、楽曲全体の強弱の変化から歌詞と強弱、強弱と曲想とのかかわりを感じ取ったり、強弱の働かせ方を工夫したりしたことは、曲想にふさわしい表現をするための方法を見だし、思いや意図をもって表現することにつながった。
- ・高等学校「A表現 器楽」・「B鑑賞」において、表現と鑑賞の関連を図った学習活動の工夫をしたことで、それぞれの学習活動における学びを生かしながら思考・判断し、創造的に表現したり、味わって聴いたりすることができた。

イ 学習過程において適切な評価をするための工夫

- ・小学校「A表現 歌唱・器楽」・「B鑑賞」において、キーワードを基に評価をしたことは、児童のつまずきを捉えて手立てを講じたり、次時の授業展開を工夫したり、学習指導と評価を一体的に進めたりすることができ、指導のねらいを達成するための手立てとして有効であった。
- ・中学校「A表現 歌唱」では、思いや意図をもって表現するための評価の工夫として、題材の評価規準の一つである「音楽表現の創意工夫」から活動を構想し、その評価規準から具体的に視点をもって生徒の活動の様子などを見取れるようにしたことで、指導のねらいを明確にした授業を展開することができ、思いや意図をもって表現することにつながった。
- ・高等学校「A表現 器楽」・「B鑑賞」では、表現の学習において、鑑賞の学習で見いだした箏の音色や奏法の特徴を視点とした自己評価や相互評価を取り入れたり、その評価を手掛かりに、個に応じた必要な手立てを講じたりしたことは、生徒の思考・判断を促し、音色の特徴を生かしながら、創造的に表現することにつながった。

以上のことから、〔共通事項〕を基に、思考・判断し、表現する一連の過程を重視した授業づくりにおいて、具体的な手立てを講じたことは、音楽的な感受を踏まえた思考力・判断力・表現力を育てることにつながったと考える。

#### (2) 課題

〔共通事項〕を基に、思考・判断し、表現する一連の過程において、知覚・感受する活動と思考・判断する活動のつながりをより明確にしたり、思考・判断する活動の

工夫改善を図ったりしていくことを通して、児童生徒の思考・判断する力を高めていく。また、思考・判断する過程における音にして試す活動を重視し、思いや意図を表現するための方法を見いだしたり、必要な技能等を身に付けたりすることで、音楽表現力を高めていけるようにする。

学習評価においては、題材に即した適切な評価規準を設定し、評価の位置付けや評価方法を工夫していくことで、更に指導と評価の一体化を図り、児童生徒の思考力・判断力・表現力を育てていくことができるように研究を深めていきたい。

#### <引用文献>

- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説音楽編」平成20年8月
- ・文部科学省「中学校学習指導要領解説音楽編」平成20年9月
- ・文部科学省「高等学校学習指導要領解説芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編」平成21年12月

#### <参考文献>

- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター  
「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校 音楽）」  
平成23年11月
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター  
「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校 音楽）」  
平成23年11月
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター  
「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 芸術〔音楽〕）」平成24年7月

#### 関係者一覧

##### 1 研究協力員

神栖市立須田小学校	教諭	木村 美奈子
筑西市立下館西中学校	教諭	飯泉 廉
県立守谷高等学校	教諭	郷 恵子

##### 2 茨城県教育研修センター

所長	武井 一郎
教科教育課 課長	金子 敏久
同 指導主事	石川 真裕美

